

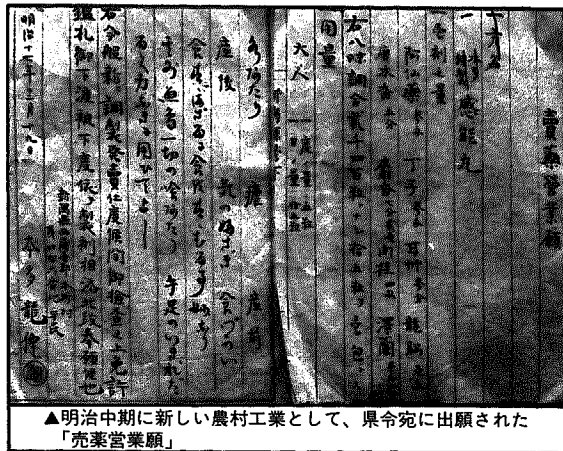
# その18 新しい農村商工業の誕生

●今月の「ふるさと再発見」シリーズ第十八回目は、明治初期頃から次第に活発化してきた村内諸産業の動向についてご紹介しましょう。

## ●諸産業の動向

岩室村は、和納・岩室が農業に、間瀬は漁業に基礎をおいていました。間瀬村の場合は漁業のほかに、銅山・石工・大工などの職業によって生計をたてていたものの、明治中期から後期にかけて出稼ぎに活路をもとめる人も増加してきました。それに、和納・岩室両村も農業に基盤をおきながらも、明治中期以降、商業的な発展が進展してきました。

大正初年の「各村村是(別表)」をみると、



▲明治中期に新しい農村工業として、県令宛に出願された「売薬営業願」

各村によって格差が見られ、なかでも間瀬村の低さが目立ち、農業収入の低さを出稼ぎ・漁業・大工・銅山などで補てんしなければなりません。また一方、和納・岩室村も農業からの収入に依存しているとはいえず、水稲以外の商業的農業・商業・出稼ぎなどに参加する人も増えてきました。

## 村民1人あたりの年間総収入

(大正初年)

	総収入	人口	1人あたり収入
間瀬村	152,070円	2,988人	51円
岩室村	422,580円	5,013人	84円
和納村	342,790円	3,184人	107円

(「間瀬村是」「岩室村是」「和納村是」)

明治中期には、和納に新しい農村工業がおり、十七年十二月に本町村の本多氏が県令宛に「売薬営業願」を申出、さらに和納・岩室村でも、醬麴製造、自家用料酒類製造、煙草生産などもおこなわれはじめました。また、明治三十八年ごろ、村内には織物製造も行われるようになり、猿ヶ瀬部落では白木綿の賃織業も部落有志共同出資によりはじまりました。これを契機として、村内各地に織物製造が流行するようになり、やがて大正期に入ると、農村工業、商業が発展し、水稲収入に依存していた岩室・和納の農業に大きな影響を与えていきました。

## ●産業の発展に伴う金融機関の誕生

明治初年、農村では頼母子講とよばれる庶民金融が広く普及し、農民の生活に深いかかわりをもっていました。

しかし、明治期、農業をはじめとする産業の発達を背景に、村内でも近代的な金融機関が誕生しました。

和納村では、明治十年に村内有志が発起人となり、毎戸一円宛の月掛を基金に集積講を創立。同十七年には、同講を会社組織に切りかえ集成社と改名。さらに二十七年には、集成社を母体に、近在農民達に肥料、農具購入の資金貸付を主な業務とする「和納銀行」が設立されました。

そして、岩室村では明治三十三年に「岩室融通貸金社」同三十九年に「有限責任岩室信用購売生産組合」が、間瀬村では同四十二年に「間瀬信用組合」が相ついで設立され、村内金融機関が整備されてきました。

このように、各村で相ついで設立された金融機関はいずれも、従前村内各地にあった頼母子講とは違い、村全体を単位とした公的な性格のつよいものであったようです。



▲近代的金融機関として、明治27年に誕生した和納銀行

今回ご紹介した内容は、岩室村史から抜粋して掲載したもので、詳しくは岩室村史をご覧ください。なお、岩室村史をご希望の方は役場総務課企画係にて頒布(一冊五千円)していただけますのでご連絡ください。

## 4月1日より 西蒲原社会福祉事務所の名称が変わります

県では「人にやさしい福祉社会づくり」の理念に基づき、県民の皆さんが家庭や地域の中で、安心して充実した人生が送れる福祉社会づくりを進めています。

そこで四月一日より、西蒲原社会福祉事務所の名称を「巻地域福祉センター」に改め、より一層地域の福祉を推進するための中心的機関となります。

だれが必要な時、必要な福祉サービスが受けられる社会の仕組みをつくる推進役として、巻地域福祉センターをご利用ください。

## 知っておきたい 検察審査会



検察審査会は、検察官が不起訴処分としたことについて、被害者や告訴人などから検察審査会へ審査申立てがあれば、民間から選ばれた検察審査員11人によってその処分のよしあしを審査します。なお新潟検察審査会へのご相談は、審査会事務局(〒951 新潟市学校町通1-1新潟地方裁判所内 ☎025-222-4131)までどうぞ。秘密は守られますし、もちろん無料です。